

土壤医試験1級合格体験記

川 嶋 一 誠*

はじめに

私が働いているエムシー・ファーターイコム株式会社は、2008年に5社が統合してスタートした、国内有数の肥料メーカーです。肥料の製造・販売や新商品の研究・開発を通して、全社一丸となって、日本農業の発展を目指しています。

弊社では高品質な農作物の安定生産に寄与する、「機能性肥料」の幅広い普及活動に注力しています。主な商品ラインナップとしては、農作業の省力化に貢献する被覆肥料や緩効性肥料、農作物の栄養価・収量の向上に効果がある微量要素肥料、環境負荷を低減する環境保全型肥料、等があります。

私は技術普及グループに約10年間所属しており、農業現場での技術サポートを通して、「機能性肥料」の普及活動に取り組んでいます。具体的な活動内容としては、展示圃試験による施用効果



の実証、講習会・現地指導会の開催、土壤診断に基づく施肥設計の提案、等です。土壤肥料や農作物に関する幅広い知識を必要とする為、日々、私自身も専門知識の拡大やスキルアップに努めています。今回の土壤医検定試験を受験するきっかけも、更なる知識の研鑽を深め、業務に活かしたいと考えたからです。

1級受験について

最初は2級から受験するのが一般的ですが、私の場合は5年以上の指導実績がある為、1級を受験する資格がありました。1級は高い知識や技術を必要とし、難易度が高いと聞いていましたので、1級から受験して合格が出来るのかと悩みました。しかし、土壤肥料学は学生時代から現在に至るまで携わってきた分野でもあることから、思い切って1級受験からチャレンジすることに決めました。

結果、幸運にも合格することが出来ましたので、僭越ですが私なりの合格に向けた試験対策について紹介させていただきます。今後、受験される皆様のヒントとなるような情報が一つでも提供できれば幸いです。

試験対策について

(1) 業績レポート

1級では業績レポートを提出しますが、配

*エムシー・ファーターイコム(株)、土壤医

点は25点と大きい為、重要な項目です。しかし、業績レポートは日々の業務内容を取り纏めれば良いので、それほど難しい内容ではないと思います。

私の場合は、担当県での水稻展示圃試験結果を取り纏めました。試験結果のグラフや写真等を添付し、出来るだけ分かりやすいレポートに仕上げるように心掛けました。

(2) 研修会の参加

日本土壤協会では土壤医検定試験対策として、2日間の研修会を試験前に実施しています。研修会では公式テキストを要約した内容の研修会資料が配布され、資料内容に沿って各講師から講義を受けることが出来ます。私はこの研修会を受講したことで、より理解度を高めることが出来ました。

また、1級の研修会では2日目にグループ討論のカリキュラムが組み込まれている為、普段は余り意見交換が出来ない農業改良普及員や同業他社の方々と、幅広くディスカッションをすることができ、大変良い機会になりました。

公式テキストの勉強のみでは情報量が多い為、まずは研修会に参加し、内容を把握した状態で勉強を始めるのも効率的な方法だと思います。

(3) 試験勉強

私の試験勉強は ①研修会で配布された資料で基礎知識の理解度を高める ②公式テキストで知識をより深め、応用力を磨く ③過去問題集で傾向を掴む といった3つのイメージで勉強に取り組みました。学習配分は ①：②：③ = 4：4：2 という感じです。

私の受験時には1級の過去問題集が無かった為、「土づくりとエコ農業」に掲載されて

いる問題集しか情報がありませんでした。その為、どのような問題が1級試験で出題されるのかが不安でしたが、とにかく研修会資料や公式テキストを繰り返し精読することで、全ての内容を把握できるように努めました。

そのような不安な状態で受験した1級試験で、最も印象に残っていることは、予想以上に試験時間が短く感じたことです。結局、私は終了間際ぎりぎりまで問題を解いていました。ゆとりを持って試験に取り組むためにも、皆様には事前に時間配分を決めておくことをお勧めします。

また、中にはサービス問題もありますが、難易度が高い問題も頻繁に出題されています。ですから、テキストで見落としそうな内容にも注意をしながら、試験勉強に取り組むことが必要です。

日々の業務が忙しい中、多くの方々が勉強時間の確保は難しいと考えがちです。しかし、その気になれば、通勤時間や昼の休憩時間等、毎日15~30分程度の勉強時間の捻出は可能ですし、長期的にコツコツと勉強を積み重ねた方が、知識が定着しやすいともいわれています。これらを習慣化して、試験勉強を行うことは大変ですが、必ず自身のスキルアップや自信に繋がると思いますので、頑張ってください。

○最後に

私としては今回の試験勉強を通して、日々の業務内容を振り返る良いきっかけとなりました。また、知らない技術情報も得ることができ、楽しみながら学ぶことが出来ました。

今回の土壤医1級試験合格に甘んじることなく、少しでも日本の農業に貢献できる様、更なる知識・技術向上を目指していきたいと考えています。